
夜道、キミ想フ

yuris

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

夜道、キミ想フ

【Nコード】

N7904T

【作者名】

y u r i s

【あらすじ】

伝えたいと思った言葉は、キミと私を別つきっかけでしかなかった。

「あの先輩格好良くない？」

「あーはいはい、そうだねえ」

友達曰く“格好良い”先輩が華麗にシユートを決め、また黄色い声援が上がる。

言われてみればルックスも良いし才色兼備だし、世間的に“格好良い”の部類であろう先輩は、例に違^{たが}わず沢山の女子から熱烈なラブコールを貰っていた。

でも私は、それを感じられない。そう思えない。

みんなが格好良いとか素敵とか思うそれが、私の中には一切ないからだ。

“んー。なんか分かんないけど、お前と話してると超楽しい”

そうへらつと笑ったキミに、私の気持ちは残されたまま。

久々に、図書館へ行ってみた。

参考書を抱えながら入ったものの勉強する気にはなれなくて、とりあえず小説などを物色していると、不思議とキミが好きな種類の本に目が向かってしまって。ぱらぱらと立ち読みしてみるけれど私には難しすぎて。一生かけても到底理解できないような内容の本をキミが3日で読み終えると思うと、鳥肌が立った。

“ばかだなあ、お前。ここはこうで——あれ？ どうだったっけ……”

キミとここで過ごした夏の日々が、忘れられない。

図書館からの帰り道、卒業した小学校を通りかかった。

もうとつくに生徒が帰ってしまったそこは、先生がまだいるからかぼんやり明かりが点いていた。

ここで6年間キミと過ごしたとは思えないくらい、その6年は短かくて。実際は4年前であるというのにあの日のことがまるで昨日のように思い起こせてしまえる。

“ごめん。お前のこと、そういう風には見られない”

キミから紡がれたその言葉が、今でも氷の刃のように私に突き刺さるんだ。

キミと今まで過ごしたこの町には、思い出が多すぎて。大切な日々を彷彿とさせるのと同時にあの日が胸の奥からすうっと湧き上がってきてしまう。

“俺まだ、そういう感情分かんないし……”

“今までそんなこと思ったことなかったっていうかさ、”

“お前のこと、大事な友達だと思ってたから”

何よりも辛くて、どうしようもなく悔しくて、あまりに自分が惨めで、最後の力を振り絞って私の口から発せられた言葉は。弱い弱い『私』という生き物を表しているみたいだった。

“もうキミのこと、諦めるから。だから今私が言ったことは忘れて結局違う学校になって会うことがなくなってから気持ちを抑えつけて、それでも爆発しかけるそれにブレーキをかけて、必死に必死に涙から逃れてきたのに。”

「会いたい……」

他の人を好きになればいいのに、そうできないのはキミがまだ好きだから？　もう諦めたと思ったのは私のただの言い訳？

でも他人にときめいたり好意を寄せたりするのは、なんだかキミへの気持ちを裏切ってしまうようで。もう終わってしまった恋に依存している私は他人から見たらどんなに哀れなのだろう。それに、誰かをそう思うことさえできないの。

時々大人びた笑みをして囁いてくれた甘い言葉も、

“俺たちさ、ずっと友達だかな”

テストで勝ったくらいで子供みたいにはしゃぎまわる性格も、

“よっしゃ！ 国語は負けたけど算数は2点勝った！”

分からない問題を考えてる時の真剣な表情も、

“んー……。どうしてお前は分かるのに、俺には分かんないんだよ”

全部愛しくて愛しくてたまらなくて。小さな仕草ひとつに夢中にさせられて。まるで、キミという時間だけ魔法をかけられたようにきらめいていた。

この小学校を見ているとキミと私がいつも一緒にいた風景が見えてくるようだったから、つい目を逸らしそうになった。けれど、どこか見入ってしまうものもあった。

“俺たちさ、もう会わない方がいいかもな……”

夜道にて、キミを想い出す。

（神様。かけがえのない彼さえ失った私から、今度は何を奪うのですか）

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n7904t/>

夜道、キミ想フ

2011年10月8日20時52分発行